

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072100454		
法人名	有限会社 かしわ		
事業所名	グループホーム みさと		
所在地	高崎市箕郷町柏木沢620-1		
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成25年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> * 理念に基づき施設運営するべく職員、家族が協力し利用者を支援している。 * その人らしい生活が地域の中で過ごせるように、地元のボランティアを数多く受け入れしている。(社協ボランティアグループ・ハーモニカ・オカリナ・ダンス・押し花グループ) * 地元中学生の職場体験の受け入れを行ったり、介護相談員の定期的来所がある。 * 外出行事(観梅・バラ園の花見・コスモス畑・ドライブ)で季節を感じ楽しんでいる。 * 余暇に行っている塗り絵が、大人の塗り絵コンクールで4421点の中より入賞する等の成果を出している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>様名山の中腹にあるホームは四季折々の自然が楽しめる環境にあり、地域の方達がホームに対して協力的な地域である。公民館での健康教室に参加して地域の皆さんと健康体操を教わったり、ホーム主催の敬老会には近隣の方に声をかけ参加を頂いたり、クリスマス会は公民館で地域のボランティアの踊りを地域の方と共に楽しんだり、散歩に出かけ近隣の方の声かけにより楽しく交流をしたりしている。災害避難訓練においても地域の方の積極的な参加があり、意見も頂いている。管理者・職員は、理念を基に利用者の主体的な生き活きた生活を考え、一人ひとりの求める生活を把握し、縫い物・パズル・習字や塗り絵等の趣味や特技を活かした時間を持つことや、散歩・友人との宗教の集いへの参加や入院中の配偶者の面会等の個別的な支援を大切にしたりした取り組みを行っている。利用者・職員共に明るい笑顔が溢れるホームである。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の1つに“その人らしい生活が地域の中で送れること…”としてあげている。散歩では近所の人と言葉を交わしたり、時には野菜や梅漬けを頂いたりする事もある。犬の散歩等で声を掛けをして行ってくれる。	会議を通じて、管理者から職員へ理念の実践に関する問題提起がなされ、両者が共有と実践化について考える契機としている。理念の一つである、「主体的な生き活きとした暮らし」の実現に向けて、縫い物や高度なぬり絵等、個別的な趣味や特技を活かした取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議では自治会長の出席がある。行事(クリスマス会)を地域の公民館で行ったり、地域の商工会・自治会に加入し催し物に参加している。	公民館で実施の奥様サロンの健康体操やダンス会に出向き、中学生の職場体験学習を受け入れ、地域商工会の旅行に参加など、地域との交流に努めている。ホーム主催のクリスマス会は公民館で行っている。地域の方から犬の散歩時の声掛けや梅シロップの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で空がない場合でも、認知症の人が居る家族の入所の問い合わせには応じる。施設見学や相談も受け入れており他地域の方の相談来所もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告を行うと共に現時点での問題点を議題としてあげ話し合っている。室内での思わぬ怪我・熱中症・災害時の避難場所意見を伺い参考としている。	2ヶ月毎の運営推進会議は行事と組合せし、ホールで利用者も参加しての会議である。家族からの意見、地域の方のボランティア情報、感染症、熱中症、災害避難訓練が話し合われサービスに活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には市役所の職員の出席を得ている。事故報告や利用者の入所・退所等を伝え、密に連絡を取っている。	市担当課には報告書を持参し、情報交換している。市主催の講習会に参加したり、ホームには社会福祉協議会のボランティアが見えており、協力関係を築くように取り組みをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケア実践のため見守りを常に行って危険回避している。玄関の施錠は昼間はなし、門は一般家庭の住居に準ずる程度の簡単なスライド式のもので鍵の使用はない。	管理者・職員は身体拘束をしないケアを理解し、玄関の鍵は掛けておらず、出かける利用者は職員に見守られ散歩に出かけている。車椅子からすべり落ちてしまう方には拘束行為にならないように工夫し、家族や関係者と相談しながら安全な対応をしている。また、職員は皮膚の内出血等を確認し細かに申し送りをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の申し送り時に利用者の身体の状態・内出血・傷等について、細かく報告、原因要因を探り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の親族より先行き成年後見制度の手続きをしたいとの相談があった。以前には利用していた入所者がいて、裁判所の調査員の面接調査に立ち合ったことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書に基づき十分に説明を行い納得の上で締結している。又改定の際には運営推進会議及び書面発送で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設側へは面会来所時や電話での連絡で話す機会を設けている。外部へは苦情箱の設置、苦情相談所を紹介している。	契約時に苦情相談受付窓口を説明し、玄関への掲示・意見箱の設置をしている。また、家族の来訪時での声かけや自宅への電話で、話を聞くようにしている。急変時の対応・夏場のエアコンの温度調節等家族から意見があり、管理者は家族へ時間をかけて話し合い、ケアに活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送り時、職員会議や業務中、随時そのような機会がある。業務時間の変更・脱衣所扇風機の設置・歩行機の使用・ベットマットの交換・家具開閉音の軽減に対するアイデア等。	日々の申し送り・ミーティング・年3～4回実施の職員会議で、話し合いをしている。早朝のケアのための勤務時間の変更・ソープを泡立て手で擦る入浴介助・ベッドの高さ・脱衣場の扇風機設置等意見があり、管理者は職員の意見を聞いて活用をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者に手当を付けた事によって努力の成果を認めたり、日頃の勤務状況によって昇給をする等、評価してやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修にはその内容に適した職員を参加させている。口腔機能向上の研修・グループホーム大会・救命講習・オムツあて講習等にはほぼ全員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くにあるグループホームとは大きな行事は一緒に行う等、常に交流を持っている。同業者の来所、施設見学も多くあり、ネットワークづくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の情報、本人の言動、本人との話の中から不安、要望を察知したり聞き入れて、安心した生活を過ごせるよう見守っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時に始まり、入所時には家族と十分に話し合いをし、抱えている不安を解消すること、家族が利用者に対する思い、要望に添った支援をする事を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が第一に何を要望しているのかを探り優先順位で対応し、他も除々に行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設での生活は利用者主体で職員はその手伝いをするという考えで接している。利用者同士の助け合い、励まし合いの場面も数多くみられる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を家族・職員一同・主治医が協力して支援する意味で来所時に近況を報告したり、来所少ない時は電話にて報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葬儀参列の同行、法事参加の際に自宅へ送り、お墓参りにお連れする等している。家族のみならず、兄弟・親族・知人・職員OB・元介護相談員が再来所しやすいよう声掛けしている。	訪問美容の利用を変更し、地域的美容院に出かけている。利用者は大きな鏡の前の自分の姿に身嗜みの必要を感じ、ホーム内とは違う利用者の姿がある。また、ホームへの家族・親族・友人等の来訪の他、親族の葬儀に家族の都合で同行したり、宗教の集いに友人と共に毎週出かけたり、それまでと同様の生活を送ることの重要性を理解し、実践化している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加型のレクリエーションの時間を設け関わり合い、時にはゲームでチーム戦にし協力するよう計っている。又余暇のパズルゲームでも数人で取り組む姿も見受けられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も移った施設、病院へ出向き面会している家族よりの電話もあり近況を得る事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者同士の会話の中より読み取ったり、声掛けを多くする事で本人の意向を感じたりすることで把握している。又困難な人については家族の協力の元それを行っている。	入浴の介助時や散歩の途中の友人とのさり気ない会話に、注目している(大切にしている)。夜間の独語から子どもの名前を言うのは会いたい気持ちの現れである等、その方の思いを汲み取っている。困難の方は家族からの情報を得て、検討をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後に本人、家族に伺ったり前利用施設よりの情報提供により利用者の生活歴、生活環境などの情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定、食事摂取量と顔色、行動の様子を見て現状を把握し過ごし方にも配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人について日々の生活より感じたことを家族の来所時に話したり、申し送り時や職員会議での職員の意見を入れたり、又主治医のアドバイス等を入れて作成している。	家族の来訪時に話を聞いたり、ケース記録やフェイスシート・また主治医からの情報提供を踏まえてカンファレンスを開催している。そのうえで職員の意見を聞いてモニタリングを実施し、3ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。計画は家族に説明し、了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子はケース記録、日勤簿、夜勤簿、受診記録に詳しく記録して全職員が共有している。それを基に介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症対応型共同生活介護事業、単独の施設となっており、他のサービスを併用している利用者はいない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験を受け入れたり、多くの地元ボランティアさん(ハーモニカ・オカリナ・踊り)の来所がある。又十日夜では育成会の子供たちが訪問してくれ、農林大学校の学園祭に行ったり、近所を外気浴・散歩して楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族、本人の希望によってこれまでのかかりつけ医を継続、又は症状により施設の協力医に変更する等自由としている。9人が5カ所の医療機関に分かれている。	契約時に、本人・家族の希望により、今までのかかりつけ医に決めている。耳鼻科・歯科は家族が受診に同行しているが、その他では職員が日頃心身の状態を把握しているので、家族に代わり受診同行し、治療方針の変更は家族と連絡を取り、「受診ノート」に記録して家族に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は病気に対する知識が豊富で気づきも鋭く、それにより受診に繋がることも多くある。受診後の対応にも心強いものがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には施設でのバイタル測定値はもとより入院までの体調の変化、ADLの状態等詳しく情報提供している。又退院は施設での対応が可能かがポイントとなる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の契約時には重度化した場合や終末期について施設の方針を説明し納得した上で入所となっている。しかし住み慣れた環境の中で慣れみの人達と共に、いつまでも生活したいとの要望もある。	契約時に、重度化や終末期の対応について常時医療行為を必要とする場合は医療機関へ移って頂く方針の説明をしている。緊急時や重度化により、家族と話し合い方針を決めている。しかし、馴染みの環境で最後まで暮らしたいとの要望も聞いており、今後は家族へホームの方針の説明を繰り返す事の必要性を課題としている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員がAEDを利用した救命講習を受けている。利用者の急変時には対応の仕方を説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を地域の消防署、設備業者立ち合いのもと行っている。地域の方の参加もあり避難誘導に協力して頂いている。夜間を想定しての避難訓練も行っている。	年2回消防署・消火設備会社が立会い、夜間想定した避難訓練を、併設する関連施設と合同で実施している。近隣の前区長・奥様サロン及び近隣宅の地域の方が参加し、協力的な姿勢がある。参加出来ない職員には、報告書で周知している。地域から、ホーム側の災害時の協力について質問があった。	地域とホームでの災害時の相互協力体制作りを検討し、地域で中心的施設になれるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた話し方、呼び方、言葉かけをしトイレ誘導、義歯の取り外しの声掛けもさり気なく行い、一人一人の尊厳を大切にしている。気付きのメモはイニシャルで個人情報を守っている。	一人ひとりの尊厳を大切にしているが、難聴の方のトイレ誘導においてさり気なく行うことの困難性を実感しており、一層の配慮を行うように努力している。見守りながらの記録時に利用者から記録について問われ、本人の記録の場合は本人に見てもらっている。メモはイニシャルを使用しプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日のプレゼント、昼食メニュー、おやつは本人の希望を伺い用意している。外出時のお弁当も利用者がパンフレットの中より選んで決めている。作品の色選び、習字の文字は自己決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・お茶・レクリエーションの時間以外は一人ひとりのペースで自由に過ごしている。パズルをする人、塗り絵をする人、休息する人、音楽を聴く人各々の用意をし見守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の出張美容師の来所がある。時には美容室へお連れする事もある。季節の衣類の入れ替えを手伝ったり、汚れた衣類はさり気なく洗濯して戻す。季節に応じた支度をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎ・ぼた餅・いなり寿司・餃子等を各々手作りをしたり、又おせち料理はパイキング形式にしたり、楽しむ様子がある。旬の食材を多く取り入れ、色彩り、味付けなど工夫している。昼食は職員も一緒に摂っている。	食材会社から配達され、その折男性利用者が食材の受け取りを一緒に行っている。職員が交代で調理し、近隣の方から頂いた野菜を献立に加えている。ぼた餅・いなり寿司を一緒に作り、特に誕生日にはその方の好みの食事を提供している。利用者は下拵え・食器拭きを行い、職員と利用者は一緒に会話をしながらの食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食・粥食・カロリー制限等の対応している。食事摂取量はチェック表に毎食時記入している。水分は時々、好みに応じてコーヒー・野菜ジュース・カルピス・牛乳等変えて、飲み易いよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。歯間ブラシ・舌ブラシ・歯ブラシの用意。介助は必要に応じて介助している。夜間は義歯を預り洗浄している。歯ブラシ・コップの消毒は定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、その人の排泄パターンに合わせてトイレの声掛けを行っている。夜間も、昼間と同様にトイレ誘導を行っている。	「排泄チェック表」を作成し、一人ひとりのトイレでの排泄を支援している。排便の有無をカレンダーに記載し自己管理をしている方、夜間のみおむつを使用する方、めまいや麻痺があるため夜間のみポータブルトイレを使用する方などそれぞれの状況にあわせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を付けている。繊維質の多い食材乳製品・水分を多く摂り入れる工夫や、レクリエーションでは運動を行っている。中には便秘薬・座薬の使用者もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応、週2回の入浴となっているが、シャワー浴や足浴を組み合わせた、足浴を毎日行っている人がいたり個々に合わせて対応している。	週2回午後の時間帯での入浴や排泄の汚れにはシャワー浴を、1人～2人介助で行っている。入浴を拒否する方には、日の変更や声かけを工夫し、ゆっくりと利用者の方と会話しながらの入浴を支援している。また、水虫・足の冷えがある方に足浴を毎日実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休憩時間や就寝時間は個人の自由とし、室温・照明の調節は本人の希望を聴きいれて、安眠・休息できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診は職員が同行し医師及び薬剤師よりの情報は受信ノートに記録している。申し送り時には必ず報告し症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・布巾たたみ・新聞たたみ等を分担して行っている。午後のひとは各々がパズル塗り絵・音楽・新聞・雑誌を楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩を日課としている利用者には必ず付き添って行っている。親族の葬儀に職員が同行し参列したり、友人の利用施設へ面会、配偶者のお見舞へ病院に行く等の外出がある	天気の良い日には、午前中の散歩や道路を隔て反対側にある六地藏のお参りに出かけ、外気に触れている。不穏になりそうな方や夕方の散歩を希望する方の散歩を支援している。個別的には親族の葬儀に職員が同行したり、家族の了解を得て、友人の利用施設に面会に出かけたりしている。また、季節の花見物等の外出行事を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を居室に持っている人は数名いたり、事務所で預っている人も居る。外出時の買物は基本的には施設側で立て替えて後で請求するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・知人への電話や手紙のやりとりは自由に行っている。それにより利用者が穏やかに楽しみとして感じて過ごしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体は掃除を徹底して行き常に清潔を心掛けている。展示スペースには季節に応じた作品や玄関に花を飾ったりフェンスには、プランターに季節の花を植える等工夫をしている。	ホール兼食堂にはテーブル・ソファ、畳スペースにテレビが置かれている。壁には利用者の行事写真・職員と利用者の共同作成の季節の貼り絵・習字が貼られている。廊下や居室には、天窓からの採光の調節がなされている。また、冷暖房が設置され、温度・湿度の調節をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの隅・TVの前にはソファを置いたり、畳の間には座布団を置き数人あるいは一人で、思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々の居室にはTV・仏壇・収入ケース思い出の人形・写真等を置いてあり、馴染みの物に囲まれ自分の空間として認識し暮らせるようにしている。	居室には、馴染みの家具類・仏壇・テレビが持ち込まれたり、壁には、カレンダー・時計・家族や本人の写真が飾られたり、好みの靴・洋服・帽子が掛けられたりしており、生活スタイルに合わせた支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の自走・杖歩行がスムーズに出来るように移動場所の安全を常に点検している パットの片付けも自ら行えるよう脱衣所横に新聞とボックスを置いてある。		